

(その三)

工場又は事業場の名称 J N C 石油化学株式会社  
市原製造所

## （2）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5 2	5 3	5 4							

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

工場又は事業場の名称 J N C 石油化学株式会社  
市原製造所

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

### (その三)

工場又は事業場の名称 三井・タウ ポリケミカル株式会社  
千葉工場

## （2）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

#### (その四)

工場又は事業場の名称	三井・タウポリケミカル株式会社 千葉工場
------------	-------------------------

### (3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成でき た。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

Handwriting practice lines consisting of a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line, repeated vertically across the page.

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事 業場の名称	デンカ株式会社 千葉工場
----------------	-----------------

(2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1	9	3	1	3	9	4	1	4	9

その他（1 9, 2 9, 3 9, 4 9, 5 9, 9 9）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策 1】について

- ・塩ビテープの粘着剤の溶剤をトルエンから水系エマルジョンへ変更しました。

【対策 3】について

- ・スチレン系樹脂（A S樹脂、M B S樹脂等）の製造プロセスを、バッチ重合法からV O C排出量の少ない連続重合法へ転換しました。

【対策 5】について

- ・メタクリル酸メチルおよびアクリロニトリルの屋外タンクに、蒸気の船戻し配管を設置し、船受入れ時の大気放出を削減しました。

(その四)

工場又は事業場の名称 デンカ株式会社  
千葉工場

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称 株式会社 レゾナック  
五井事業所

## (2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2	1	5	1	5	4	5	6	9	1

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

Handwriting practice lines consisting of five horizontal lines: a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line, with two blank lines above and below the main set.

(その四)

工場又は事業場の名称 株式会社 レゾナック  
五井事業所

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

Handwriting practice lines consisting of five sets of horizontal lines. Each set includes a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line.

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称 A G C 株式会社  
千葉工場

## (2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
3   1	3   2	5   1	5   3	5   4					

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

Handwriting practice lines consisting of five horizontal lines: a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line, with two blank lines above and below the main set.

(その四)

工場又は事業場の名称 AGC株式会社  
千葉工場

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

令和6年は、削減率が計画60%に対して実績62%となり、計画を達成した。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	大阪国際石油精製株式会社 千葉製油所
------------	-----------------------

(2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
5	2								

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

対策1について

・充てん出荷施設に設置稼動している炭化水素回収装置（V R S）を適切に運転調整し、回収率を高めました。

・V R Sの回収率目標85%以上に対して、令和6年度実績は適正な管理を行なった結果95%を維持しました。

(その四)

工場又は事業場の名称	大阪国際石油精製株式会社 千葉製油所
------------	-----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
(A)	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)。	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)。	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)。
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

・炭化水素回収装置（V R S）の吸収溶液循環量の適正管理により目標年度の達成値を順調に維持しています。
・石油製品の出荷設備（炭化水素回収装置）の運転調整を適切に行いました。
・概ね計画どおりの排出等の量となりました。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	矢澤光学塗装株式会社 千葉工場
------------	--------------------

## （2）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10									
2	1	2	2	2	3	3	4	5	2	9	1	3	3					

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

#### (その四)

工場又は事業場の名称 矢澤光学塗装株式会社  
千葉工場

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

工場又は事業場の名称	日本リファイン株式会社 千葉工場
------------	---------------------

## (2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	日本リファイン株式会社 千葉工場
------------	---------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	令和4年度以前	令和5年度	令和6年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
○ B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

高沸点溶剤の取扱いの割合を増やすことで、削減できると計画していたが、実績では、 高沸点溶剤の量が減少し、低沸点溶剤の使用量が増加したため、排出量が増加した。 高沸点溶剤のリサイクルでの生産を安定的に行う予定。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称 三菱製鋼株式会社  
千葉製作所

## （2）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

## 対策 6について

- ・塗装膜厚管理を管理値の下限に近づく様に改善する。
  - ・塗装仕様を客先と打合せて変更する(重ね塗り回数の削減)。

#### (その四)

工場又は事業場の名称 三菱製鋼株式会社  
千葉製作所

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称 ティー・エム・ターミナル(株)  
市原事業所

## （2）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	ティー・エム・ターミナル(株) 市原事業所
------------	--------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

＜課題と対策＞

- ・ TA-303タンク（1000KL以上）については、炭化水素回収装置に接続されており、排出ガスの99%を回収しているが、削減率については基準年度（H12年）と比較した場合、顧客の要望によりVOC対象品目の取扱いが大幅に増えており基準年度の排出量を達成することは困難となっている。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	U B E エラストマー株式会社 千葉工場
------------	--------------------------

(2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2	9	3	9	5	1	5	4	9	1

その他 (19、29、39、49、59、99) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

対策 1 について
・昨年度に引き続き、脱臭入口VOC濃度を測定し4系列の負荷調整を行うと共に、廃ガス処理温度と脱着／吸着サイクルの管理を徹底させ、脱臭塔出口からのVOC物質の放出量を削減する。また、別系統のRHガスは脱臭装置送り禁止を継続する。
・脱臭装置ガスクロを増強し、監視を強化する。
対策 2 について
・ポンプ更改等によりシール部からの微量漏れの是正を継続的に進めていく。

(その四)

工場又は事業場の名称 UBE エラストマー株式会社  
千葉工場

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

Handwriting practice lines consisting of five sets of horizontal lines. Each set includes a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line.

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称 丸善石油化学株式会社  
千葉工場

## (2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
3 1	3 2	4 1	5 2	5 3	5 4				

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

(その四)	工場又は事業場の名称	丸善石油化学株式会社 千葉工場
-------	------------	--------------------

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

- ・貯蔵施設の呼吸ロスによる排出量は生産量の増減に伴い変化します。
- ・ユーザーの変化により出荷手段がパイプラインから船、ローリー車に移行しておりそれによる排出量増加の傾向があります。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	東レ・ファインケミカル株式会社 千葉事業場
------------	--------------------------

(2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10									
2	1	3	1	3	9	4	9	5	2	5	3	5	4	5	7			

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 3 (39)

屋外タンクから原料中間タンクへの補充方式を液面一定で補充することに設備変更を行い、原料中間タンクの受け入れ時の排出ガス削減を継続中。

対策 4 (49)

タンクローリーからの受け入れ排出制御のベーパーリターンラインを設置し使用中。

#### (その四)

工場又は事業場の名称 東レ・ファインケミカル株式会社  
千葉事業場

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事 業場の名称	東レ株式会社 千葉工場
----------------	----------------

## (2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
4	1	4	9	5	1	5	6		

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

### 1. 対策 1（記号 41）について

第9期P R T R 対象物質削減対策設備として、アクリロニトリル浜貯槽に、内部浮屋根式タンクへの改造

工事を実施【R2年2月19日事前協議書提出受理済】

### 2. 対策 2（記号 49）について

アクリロニトリル浜貯槽設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け-20°Cに冷却して、アクリロニトリルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。（コンデンサーはバックアップ用として残している）  
メタクリル酸メチル浜貯槽設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け-20°Cに冷却して、メタクリル酸メチルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。

### 3. 対策 3（記号 51）について

第7期P R T R 対象物質削減対策設備（シリカゲル吸着装置）

第10期P R T R 対象物質削減対策設備（シリカゲル吸着塔設置）設置【R2年2月19日事前協議書提出受理済】

### 4. 対策 4（記号 56）について

第8期P R T R 対策設備削減対策設備（3塔式蓄熱燃焼炉）

第11期P R T R 対策設備削減対策設備（3塔式蓄熱燃焼炉）設置【R2年2月19日事前協議書提出受理済】

(その四)

工場又は事 業場の名称	東レ株式会社 千葉工場
----------------	----------------

### （3）自主的取組実績の評価

#### ア（1）の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる。 (一部に課題がある)	削減目標を概ね達成できた。 (一部に課題がある)	計画年度の目標を概ね達成できた。 (一部課題がある)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

Handwriting practice lines consisting of three horizontal dashed lines for each row, intended for children to practice letter formation and alignment.

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

### 工場又は事業場の名称

京葉モノマー株式会社

## (2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

(その四)

工場又は事  
業場の名称

京葉モノマー株式会社

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に 向けて順調に進んでい る。	削減目標を達成でき た。	計画年度の目標を達成 できた。
B	目標年度の目標達成に 向けて概ね順調に進ん でいる(一部に課題が ある。)。	削減目標を概ね達成で きた(一部に課題があ る。)。	計画年度の目標を概ね 達成できた(一部に課 題がある。)。
C	目標年度の目標達成に 困難な課題がある。	削減目標の達成に困難 な課題がある。	計画年度の目標の達成 に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

1. 装置トラブル発生時の機器開放等があると排出量増加につながるため、装置ト ラブルの減少が課題である。 令和6年度は装置トラブルもなく連続運転を実施できたため、排出量を抑えられた。
2. 各所から放出されるベントガスを吸引し廃棄物焼却炉で焼却しており、吸引配管 の清掃を定期的に行う。
3. 廃棄物焼却炉の清掃時はベントガスが空放されるため、廃棄物焼却炉の清掃 期間をできるだけ短くする。
4. 屋外タンク ベントラインのクローズ化を実施する。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載  
すること。

### (その三)

工場又は事業場の名称	株式会社ENEOSマテリアル 千葉工場
------------	------------------------

## （2）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
3	1	5	4	5	6				

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

#### (その四)

工場又は事業場の名称 株式会社ENEOSマテリアル  
千葉工場

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	出光興産株式会社 千葉事業所
------------	-------------------

## (2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
3	1	3	9	4	1	5	1	5	2

その他 (19, 29, 39, 49, 59, 99) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

### (対策 3 9について)

従来、粗ベンゼンは弊社他事業所へ船転送し処理していたが、平成13年6月以降、当事業所内処理に内製化することで海上出荷に伴うVOC排出量を削減した。

### (対策 5 9について)

平成26年度～28年度にかけ、一部の製造装置を停止、廃止したことによりVOC大気排出量は、基準年の排出量から90%以上の削減量となった。

### (対策 3 1の補足説明)

平成21年度はポンプ軸封からの飛散を減少させるために、軸封の改善を実施した。

### (対策 4 1の補足説明)

ナフ等揮発性有機化合物は浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに貯蔵し、貯蔵に伴うVOC排出量を削減した。

### (対策 5 1の補足説明)

排出ガス中の揮発性有機化合物を吸着回収する設備の設置等により大気中への排出量を減少してきた。

### (対策 5 2の補足説明)

タンクローリー充填・出荷施設にはVOC回収設備を設置し、VOC回収率90%以上の高回収率運転を行い、タンクローリー充填・出荷に伴うVOC排出量を削減した。

#### (その四)

出光興産株式会社  
千葉事業所

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)	工場又は事業場の名称	ライオン株式会社 千葉工場
-------	------------	------------------

## (2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

対策1について  
当該貯蔵タンクの適切な管理によるVOC発生量の削減。

(その四)

工場又は事業場の名称 ライオン株式会社  
千葉工場

### (3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策



Handwriting practice lines consisting of five horizontal lines: a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line, with two blank lines above and below the dashed line for each row.

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	CHEMIPAZ株式会社 千葉工場
------------	----------------------

(2) 挥発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
3	9	5	2						

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

対策 1について
3 9 : ISO14001 VOC削減計画の実行
タンクローリー車で屋外タンクに原料を納入する時、均圧管を設置し対応。
また、屋外タンクの外部から散水し、タンク内部の液温上昇を防いでいる。

(その四)

## 工場又は事業場の名称

CHEMIPAZ株式会社  
千葉工場

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称 DIC株式会社  
千葉工場

## (2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10										
1	1	2	1	2	3	3	1	4	1	5	1	5	2	5	4	5	6	9	1

その他（19、29、39、49、59、99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

Handwriting practice lines consisting of five sets of horizontal dashed lines for letter formation.

(その四)

工場又は事業場の名称 DIC株式会社  
千葉工場

### (3) 自主的取組実績の評価

#### ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

## イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。